

2011●図書館展示 4月



1791

モーツァルト最後の年

《ピアノ協奏曲K.595》と《魔笛》を中心に

2011 年度基礎ゼミコンサート
「音楽の力 Part II」 参考資料展

企画・解説●市川啓子（国立音楽大学附属図書館総務部）

期間●2011年4月4日～5月6日

場所●図書館ブラウジングルーム・AV資料室

1791：モーツァルト最後の年

《ピアノ協奏曲 K.595》と《魔笛》を中心に

2011年度基礎ゼミコンサート「音楽の力 Part 」参考資料展

今年度の基礎ゼミ・レクチャー・コンサート「音楽の力 Part 」では、モーツァルトの最晩年の傑作 《ピアノ協奏曲 K.595》と歌劇《魔笛》第2幕ハイライト が演奏されます。

図書館では参考資料展として、この2つの楽曲が作曲されたモーツァルト最後の年、1791年に焦点を当てながら、両曲に関する興味深い資料を図書、楽譜、貴重楽譜の中から選んで展示いたします。CD、映像資料は、AV資料室をご覧ください。

Wolfgang Amadeus Mozart(1756-1791)



1791年(最後の年)

1791年、すなわち生涯最後の年が、創作において豊穡の年であったことは周知の通りである。・・・

最後の年のモーツァルトは、プライドを捨て、新分野をふくむ多方面に手を伸ばすことによって、自己自身の活性化に成功した。・・・ここにいたって、初心者にも手をさしのべる、やさしさを獲得したのである。モーツァルトの最後のページがこのように綴られたことを、われわれは喜ぶたいと思う。

磯山雅『モーツァルト=二つの顔』より

Contents

最後の年 1791を知るための図書-----	2
コンサート演奏作品 自筆の楽譜(ファクシミリ版) -3	
貴重楽譜-----	4
二つの作品の関連資料-----	7
図版-----	10
最後の年 1791の作品年表-----	12

モーツァルト 最後の年 1791 を知るための図書

T1 『モーツァルト最後の年 1791』 H・C・ロビンズ・ランドン著 海老澤敏訳 中央公論社 2001

請求記号 C65-316

原書名: Mozart's Last year, by Howard Chandler Robbins Landon.(1988)

ヨーゼフ・ハイドンの研究者として知られていたロビンズ・ランドンが著した“モーツァルト三部作”の第一弾。続いて『モーツァルト黄金時代 1781-1791 年』(1989)、『ザ・モーツァルト・コンペンディウム モーツァルトの生涯と音楽への案内』(1990)を公刊し、モーツァルトの権威として世界的に認められるようになった。この著作は、1980年代前半に突如として登場し、世界中で大成功を収めた戯曲と映画、とくに映画 アマデウス に対するアンチテーゼとして書かれたもので、序文で「モーツァルトの最後の年について、私たちが自由に使える同時代に書かれた真正な記録資料にもとづいた報告を踏まえて書くことが、新たにモーツァルトの友となり、讚美者となった多くの人たちにとって有益なこともかもしれない。」と述べている。そして、歴史家として正攻法の記録資料に基づく研究により、モーツァルトの「1791年に書かれた音楽の忘じがたい美しさをもつ秋色の世界」の理解へと、私たちを導いてくれる。

T2 『モーツァルトの生涯 3』 海老澤敏著 白水社 1991

請求記号 C54-361 他

日本のモーツァルト研究者・海老澤敏氏によって、1984年に600頁に及ぶ大部なモーツァルト伝が著された。本書は、没後200年に当たる1991年に新書版として3分冊化されて刊行されたもの。モーツァルトのドラマティックな生涯の歩みを、残された一次資料と数多くの伝記研究の成果を元に、詳細に記したもので、本書には、第9章:巨匠期の光と影、第10章:迫り来る夕暮れ、第11章:最後の時が鳴る が収められている。最後の年の作品群については「作品のジャンルがはなはだ多彩、かつ多様であり、かつまたそれらの作品のすべてが、いずれも異常なまでに澄み切った音調をもち、しかも切々とした情調をにじませ、感動的な情趣をただよわせている」と述べている。また、時々刻々と記される最期の時にいたる様相は、資料に語らせるという押さえられた筆ゆえに、胸に迫るものがある。

T3 『モーツァルト=二つの顔』 磯山雅著 講談社 2000

請求記号 C64-553 他

基礎ゼミ・レクチャー・コンサートの企画・解説を担当される本学の磯山雅教授による、数ある著作のうちの一つ。モーツァルトに対する「無謬の天才」という一面的なとらえ方をただし、資料研究の進展を背景にした現代のモーツァルト研究の成果から、新しいモーツァルト観を構築している。特に第2章:「晩年の危機」の真実、第3章:民衆のなかへ 沃野開く最後の年では、ピアノ協奏曲 K.595 や 魔笛 が生み出された最後の年に、モーツァルトの新しい価値観がどのように形成され、音楽に昇華されたかを知ることができる。

T4 『モーツァルト書簡全集 ウィーン時代後期』 海老澤敏・高橋英郎編訳 白水社 2001

請求記号 C65-638 他

原書名: Briefe und Aufzeichnungen, Gesamtausgabe/ Mozart.(Barenreiter, 1962-1975)
7vols.

この邦訳『モーツァルト書簡全集』は、現在、音楽学ならびにモーツァルト研究の総力をあげて刊行が続けられている『新モーツァルト全集』の一環として、1962年から刊行され、1975年に完結された『モーツァルト書簡と記録・全集』(全7巻)を底本として、編集ならびに翻訳がなされたもので、1965年に刊行計画が立てられてから、35年の歳月を経て全6巻として完結した大作である。この第6巻は、モーツァルトのウィーン時代 - 1785年から、生涯を閉じる1791年まで のモーツァルトとそれを取り巻く人たちの手紙を訳出し、手紙と手紙をつなぐ「解説」が詳細になされている。(魔笛)と(ピアノ協奏曲 K.595)についても、詳しい知識が得られる。

コンサート演奏作品 自筆の楽譜（ファクシミリ版）

演奏曲

ピアノ（クラヴィーア）協奏曲 第27番 変ロ長調 K.595

Konzert für Klavier und Orchester B-Dur K.595

作曲年：1791年1月5日、ウィーン

編成：独奏ピアノ、

フルート、オーボエ2、ファゴット2、ホルン2、ヴァイオリン2部、ヴィオラ、バス

< 解説 >

モーツァルト最後のクラヴィーア協奏曲。自作品目録に「1791年1月5日」と書かれているため、この頃完成したと考えられていたが、アラン・タイソンは、自筆楽譜の紙質を調べ、1788年には着手され、中断後1791年初頭に完成したとの仮説を打ち出している。…特徴の一つに、フィナーレ楽章の軽やかなロンド主題が、1791年1月14日に成立した愛らしいリート「春への憧れ」K.596と酷似していることがあげられる。…死の年を迎えてますます窮迫していった生活のなかから生まれた簡明清澄さがあらわれている、とみなすこともできる。

『モーツァルト事典』（東京書籍）より X-044/M939/M

T5 〈Klavierkonzert B-Dur KV 595〉 (Documenta Musicologica, 2 Reihe:Handschriften -Faksimile, XXIII) Barenreiter, 1989

請求記号 A9-520

自筆楽譜は、1799年末/1800年初めに、寡婦コンスタンツェからJ.A.アンドレが買い取り、その後、ベルリンの王立図書館を経て、現在は、ベルリン国立図書館に収められている。このファクシミリ楽譜は、筆跡は再現できているが、紙質や透かしまでは再現できないのが残念である。巻末にW.レームによる解説があり、モーツァルトが2種類の紙を用いたこと、その使用の箇所等が詳しく記されている。展示箇所は、第3楽章の初め、〈春への憧れ〉と近似した旋律部分。

演奏曲

2幕のドイツ語オペラ《魔笛》K.620

Die Zauberflöte, K. 620

作曲年：1791年3月から9月にかけてウィーンで

初演：1791年9月30日 ウィーンのアウフ・デア・ヴィーデン劇場で

台本：ヨハン・エマヌエル・シカネーダー Johann Emanuel Schikaneder(1751-1803)

< 解説 >

モーツァルトが、最後に完成し、初演の指揮を行った作品で、この世紀のみならず、全オペラ史を通じて最高峰に位する曲の一つである。これほど簡明な構造・書法の音楽の中に、これほど至高の芸術性を湛えたものはまれである。…

『モーツァルト事典』（東京書籍）より X-044/M939/M

T6 〈魔笛〉K.620 VED Deutscher Verlag für Musik 1979

請求記号 H20-281

自筆楽譜は、彼の死後様々な人の間を巡った後、1977年にDeutsche Staatsbibliothekに収められた。このファクシミリは、ダイアログ部分を除く全音楽が収められている。今回展示する部分は、第2幕でパパゲーノが「恋人か女房か」と歌う箇所。モーツァルトの筆跡から、創作当時の様子を垣間見ることができる。

*この頁の解説は、長谷川由美子(特別資料部)

T7《春への憧れ》K.596

『子供と子供好きな人のためのクラヴィーア伴奏曲集』 ヴィーン, アルベルティ, 1791 初版

請求記号 Mfc1202

春への憧れ は『子供と子供好きな人のためのクラヴィーア伴奏歌曲集』「春の部」(全 30 曲)の第 1 曲である。モーツァルトの作品としては他に(春の初め)と(子供の遊び)が掲載されている。他に「冬の部」が出版されたが、「夏の部」と「秋の部」は出版の形跡がない。口絵はクラヴィーアを弾く母親を中心に子供たちがさまざまな楽器を奏でている図で、曲集が家庭音楽用であることを伝えている。楽譜の歌の部分はソプラノ記号である。出版者アルベルティは、(魔笛)の初版台本の絵を描いた人物。

T8《山家春暁》:『新編中等唱歌』に収められた旋律

奥好義編『新編中等唱歌』明治 25 年 12 月出版の第 3 版

東京:内田正義 明治 32(1899)年 5 月出版

請求記号 Mfc5459

モーツァルトの 春への憧れ の旋律を使った唱歌は明治期で最もポピュラーな曲の一つである。最初に登場した 上野の岡 (明治 21 年)から明治の終わりまでに実に 12 もの異なった歌詞で歌われた。千代田の宮居 (M22)、謹學 (M25)、山家春暁 (M25)、始業式 (M26)、夏 (M30)、漁船 (M38)、うれしき春 (M39)、ゆかしいぢらし (M41)、蓮の花 (M42)、春の曙 (M44)、春は来りぬ (M45)。題名から推察できるように、「春」とは関係のない詞も多い。

大正・昭和時代に入ってから 15 の歌詞で多くの教科書に登場し、その中の一曲は朝鮮総督府編纂教科書にも 京城 として使われた。ピアノ伴奏とも原曲で出版されるのは昭和 11 年である。展示に使われた 山家春暁 (新編中等唱歌、東京、内田正義、明治 25 年)は二部合唱譜で、原曲とは細かな違いがあるが、これは参考にした曲が、原曲ではなく、明治期に日本に入ってきたドイツやアメリカの唱歌集によっているからである。

『中等唱歌』にはこの曲のほかに、ウェーバーの 魔弾の射手 より アガーテの祈り やメンデルスゾーンの花束 (op. 47-5)や 二人の心が離れてしまえば (op. 99-5)が掲載されている。

歌 詞

一

春はあけほの花はさかり 明る山窓しづかなれと人も
とひこす鳥もなかつ谷の 水おとひとり清し
(春はあけほの 花はさかり 明る山窓 しづかなれど 人も訪いこず 鳥も
啼かず 谷の水音ひとり清し)

二

みねはほのぼのはなにしらみ たにの雉子は啼て立てと
おほろつきよのひかり のこりまどのともしびいまだつきぬ
(峰はほのぼの 花に白み 谷の雉子は 啼いて立てど 朧月夜の 光の
こり 窓のともしび いまだつきぬ)

T9 《魔笛》K.620

ボン ジムロク 1812 年以降 ピアノ譜の後続版

請求記号 M3-543

初演の評判は必ずしも高くはなかったが、初演から 1 年経った 1792 年 11 月には 200 回の上演を記録している。楽譜も同様で、ピアノ・ヴォーカルスコアは 1791 年から 1793 年まで各部分が別々にウィーンのコジェルフの(音楽雑誌)から出版されたが、ほぼ同時に当時ウィーンにおける最大の出版社アルタリアからも出されて、何度も増刷された。ただし、アルタリアの楽譜は全曲ではない。この後も各地の出版社から次々とピアノ譜が出された。この楽譜は魔笛の出版史からみるとかなり後になる。歌詞はドイツ語とイタリア語。展示箇所は、第 2 幕でパパゲーノが「恋人か女房か」と歌うアリア。

T10 『フリーメーソン歌曲集』K.623

ライプツヒ G.F.シュタルケ 1795 年 第 2 版

請求記号 M3-420

全 52 曲を収録しているがモーツァルトの 魔笛 からはこのパパゲーノのアリアと、ザラストロのアリア イシス、オシリスの神よ (第 2 曲)、それに 3 人の童子の 3 重唱 おふたりともよくきましたね (第 5 曲)が掲載された。なお、タイトルページを飾る 2 つのヴィニエットのひとつには”An die Stärke”(パパゲーノのアリア)につけられた詞“ Ein übte Treu und Redlichkeit”が書かれている。パパゲーノのアリアはこの『フリーメーソン歌曲集』を代表する曲として扱われているのである。

T11 《誠は人の道》: 『小學唱歌集 第三編』に収められた《魔笛》

文部省音楽取調掛 明治 17 年 3 月初版発行

請求記号 M5-440

まこと八人の。道ぞかし。つゆなそむきそ。そのみちに。
こゝろ八神の。たまものぞ。露なげがしそ。そのたまを

誰がこの曲の原曲をパパゲーノのアリア(恋人か女房か)と思うだろうか。最初の唱歌集である『小學唱歌集』第三編に掲載されたことや原曲が有名な曲であること、詞が原曲の内容とかけ離れていることから、『小學唱歌集』を扱った文章では半ばあきれ、半ば面白がられながら言及される。原曲を無視して関係のない歌詞をはめ込んだように論じられたりするが、実は歌詞にはルーツがある。曲はオペラが作られた 1791 年から 2 年後の 1793 年に『フリーメーソン歌曲集』の第一曲目として”An die Stärke”という題で編曲された。歌詞の内容は「誠実(Treu)と忠実(Redlichkeit)を説く」もので、短い前奏付きのピアノ伴奏を伴った曲は最初の 8 小節のみが使われた。ドイツ語の詞は 1775 年に作られた”Der alte Landmann an seinen Sohn”、歌いだしは”Üb immer Treu und Redlichkeit”である。他の作曲家による曲がついたこともあったが、『フリーメーソン歌曲集』でパパゲーノのアリアにこの詞が当てはめられると、その後この曲で広まった。

ドイツ語圏で広く歌われた曲はヴァイオリン教則本で有名な Ch. H. ホーマンが編集した唱歌教科書の第 2 巻に掲載され、その翻訳が 1858 年にボストンで出版された。この曲が日本の音楽教育の父ともいべきメーソン編纂の音楽教科書に”Truth and honesty”の題のもとに詞、旋律形と共に取り入れられ、日本では『小學唱歌集 第三編』の 73 番目の曲として多少編曲されて登場した。なお、『小學唱歌集』第三編にはベートーヴェンのピアノ曲から取られた唱歌が入っていることも書き添えておく。

T12 《魔笛》 K.620 リブレット

ハノーヴァー ボドゥヴィッツ 18世紀中ごろか

請求記号 M6-524

カットされた場面や入れ替わった場面等があって興味深い。
展示箇所は、第2幕 3人の童子の三重唱(間もなく夜明けを告げる太陽が)部分。

T13 《御稜威の光》:『中等唱歌集』の中の《魔笛》

東京:高等師範学校附属音楽学校 明治22(1889)年12月

請求記号 M5-448

魔笛 より3人の童子の三重唱 間もなく夜明けを告げる太陽が 『中等唱歌集』(高等師範学校附属音楽学校編纂、大日本圖書、明治22年)

3人の童子の重唱は、天皇が統治する明治の世を賛美する歌に変貌している。「御稜威」(みいつ)とは絶対的な力をもつもの、つまり天皇を指す言葉で、今や死語であるが、この『中等唱歌集』には他に4曲の歌に使われている。讚美歌にも繰り返し使われた言葉であった。曲は1か所だけ、和声の構成音の組み替えがある以外は原曲どおりである。

『中等唱歌集』にはこの曲のほかに《魔笛》より《モナスタスと奴隷たちの合唱》、《ユダスマカベウス》より《見よ勇者は帰る》、《埴生の宿》、ブラームスの《大学祝典序曲》に使われたドイツ学生歌、ベートーヴェンの《自然における神の栄光》等が掲載された。

歌 詞

あゝ明治の御世や、あゝひかりの世や、いかにかくこそ、かゞやきぬらめ。
みくさのたから、世々につたはりきて、あめつちひろく、みいつのひかりを、
はなちますらん。

二つの作品の関連資料

“翼を得た時間”

- T14 『モーツァルトあるいは翼を得た時間』 礒山雅著 東京書籍 1990 請求記号 C59-087 他
『モーツァルト＝翼を得た時間』 礒山雅著 講談社 2008 請求記号 J119-427

本学の礒山雅教授が約 20 年前に執筆された最初のモーツァルト論。高橋英郎氏より「『モーツァルトはト短調』との小林秀雄以来の通念を裏返す形で入ってくる」と評され反響を呼んだ。最近(2008 年)、講談社学術文庫として、最終章に「モーツァルトの美意識を探る」を収録して再版された。第 8 章「死と救済」で〈魔笛〉について、第 9 章「変わらざるモーツァルト」で〈変口長調クラヴィーア協奏曲〉について、大変ユニークな解釈がなされている。

〈魔笛〉をさらに知るために

- T15 『魔笛 秘教オペラ』 J・シャイエ著 高橋英郎・藤井康生訳 白水社 1976 請求記号 C25-958 他
原書名: La Flûte enchantée Opéra maçonnique, by Jacques Chailley.(1968)

「モーツァルトの傑作『魔笛』の舞台を見て、当惑しない観客はいないだろう」との出だして始まるこの本は、筆者自身の疑問をきっかけにして、「フリーメイソン・オペラ」としての 魔笛 に、独自の神話的解釈を試みている。

台本作者:シカネーダー

- T16 『魔笛とウィーン』 クルト・ホノルカ著 西原稔訳 平凡社 1991 請求記号 C54-895
原書名: Papageno - Emanuel Schikaneder; Der grosse Theatermann der Mozart-Zeit, by Kurt Honolka.(1984)

原書名を字義通りに訳すと「パパゲーノ エマヌエル・シカネーダー、モーツァルトの時代の演劇人」である。しかし、本書はシカネーダーの一代記にとどまらず、「ドイツ・オペラ」の開拓者でもあった興行主シカネーダーの生涯を描くことにより、1770～1800年のウィーン三十年間の舞台芸術全体、社会全体を描こうとしている。「魔笛」の章では、シカネーダーに批判的な立場と擁護する立場の論者が論争する形をとって述べられており、大変興味深い。

〈魔笛〉台本ファクシミリ

- T17 『Mozarts Zauberflöte und ihre Dichter: Schikaneder, Vulpus, Goethe, Zuccalmaglio: Faksimiles und Editionen von Textbuch, Bearbeitungen und Fortsetzungen der Mozart-Oper』 Herausgegeben, von Werner Wunderlich, Doris Ueberschlag und Ulrich Muller. (Wort und Musik. Reich, Libretti, Nr.4) Mueller-Speiser,2007 請求記号 J112-402

「モーツァルトの“魔笛”とその詩人 シカネーダー、ヴルピウス、ゲーテ、ツッカルマリーヨ」と題された本書には、シカネーダーによる 1791〈魔笛〉初演時の台本と 1798 補遺、及び〈迷宮〉の台本のファクシミリが収められている。また、ゲーテが試みた〈魔笛〉続編(第 2 部)も収められている。

フリーメイソンとモーツァルト

- T18 『モーツァルトとフリーメイソン結社』 パウル・ネットウル著 海老沢敏・栗原雪代共訳
(モーツァルト叢書 17) 音楽之友社 1981 請求記号 C32-596 他

原書名: Musik und Freimaurerei. Mozart und die königliche Kunst, by Paul Nettl.(1956)
チェコ・ドイツ系の音楽学者、パウル・ネットウルにより 1956 年に刊行された『モーツァルトとフリーメイソン結社 モーツァルトと王者の術智』の全訳。モーツァルトのフリーメイソン音楽家としての活動を中心に、その前史、そして、18 世紀のフリーメイソン芸術の展望、そして、後代の眺望までも行った最初の書とされている。 魔笛 続篇の章では、ゲーテがフリーメイソン思想により創作した 魔笛第二部 が詳細に紹介されていて、興味深い。

T19 『フリーメイソンのすべて その歴史・象徴・秘密』W.カーク・マクナルティ著 武井摩利
訳 創元社 2008 請求記号 J114-899

原書名: FREEMASONRY: Symbols, Secrets, Significance, by W. Kirk MacNulty.

モーツァルトとの関連ではなく、フリーメイソンとは？を理解するために最適な図書。豊富な図版と記述により、その歴史と思想、謎と秘密について理解することができる。最後の章「結社の兄弟たち 著名なフリーメイソン」の中にモーツァルトの名前が見られる。

姉妹作 (賢者の石)

オペラ (賢者の石) 筆写総譜は、第2次世界大戦中にドイツからソヴィエトに持ち去られていたが、1990年頃にロシアからハンブルクの図書館に返還された。1997年に、アメリカの音楽学者ブーフによって、作曲者の一人としてモーツァルトの名前が書き込まれていることが発見され、「モーツァルトの作品新発見！」として、大々的に報道された。磯山教授は、著書『モーツァルト 二つの顔』の中で、「モーツァルトは明らかに新しい価値観を、心に形成しつつあった。そのことを考えるうえで参考になる興味深い事実」として、この発見の意義について述べている。

台本

T20 『Schikaneders heroisch-komische Oper Der Stein der Weisen – Modell für Mozarts Zauberflöte; Kritische Ausgabe des Textbuches』 Herausgegeben, mit Anmerkungen und einem Nachwort versehen von David J. Buch und Manuela Jahrmärker. Hainholz Verlag, c2002 請求記号 J102-710

オペラ (歌芝居) (賢者の石もしくは魔法の島) の台本とそれについての解説が収められている。この台本は、シカネーダーが1970年にアウフ・デア・ウィーン劇場で上演するために童話集「ジニスタン、あるいは妖精精霊物語選」を元に書いたとされる。上演を急いだため、作曲は5人が共同で関わった。第2幕のNo.4 Duetto とNo.10 Finale の2曲(内1曲は 猫の二重唱)にMozartの名前が見られる。「人物の設定や思想においても、また、その音楽の様式と楽想においても、並々ならぬ類似が存在している」と前掲書において磯山教授は述べている。

CD

T21 『Der Stein der Weisen, oder Die Zauberin sel=The philosopher's stone, or The enchanted isle』Telarc ~ PHCT-5190 ~ PHCT-5191 (日本) 請求記号 XD43264-66

1998年にマーティン・パールマン指揮、ボストン・カメラータによって演奏会形式で復活上演された世界初録音のCD。この日本版のCDには、日本語解説、および、パールマンによるモーツァルトの(魔笛)との比較による(賢者の石)解説の特典盤が付けられている。

楽譜

Der Stein der Weisen, ed. By David J. Buch. (Recent Researches in the Music of the Classical Era, C76) A-R Edition, 2007 発注中

1997年に新事実を発見した音楽学者デイヴィッド・ブーフによって、校訂・編集されたスコア。A-R Edition から叢書楽譜として出版された。当館では、現在未所蔵。

一次資料の復刻

T22 『W.A.Mozart: portfolio of a genius』 by Neal Zaslaw. Thornwillow Press, 1991

請求記号 C55-161

「モーツァルト 天才のポートフォリオ」と題されたこの大型復刻集は、アメリカの音楽学者ニール・ザスローを中心とした、リンカーン・センター・モーツァルト二百年祭スタッフの編集により、没後200年の命日を記念して出版された。序文によれば、「モーツァルトの生涯の全期間を提示し、彼の広範な活動と関心を、また、彼の取り巻く文化を把握し、…(中略)…モーツァルトの人柄、天賦の才、それに業績を明らかにする小窓を開けるような興味深い文書を提示する」といった目標を念頭において、世界各国のコレクションの中から、意義深い手稿の楽譜、手紙、初演のチラシ等の文書を集めて復刻し、注釈を付けて出版したとのことである。当館所蔵のものは、海老澤敏監修による日本語解説書付。今回、第21葉「(魔笛)スケッチ(第1幕フィナーレから第518-577小節の大譜表を含むスケッチ)」を展示する。

(ピアノ協奏曲 K.595) 楽譜いろいろ

T23 ベーレンライター社

請求記号 E14-589

Mozart Barenreiter Urtext. Die Klavierkonzerte Barenreiter, c2006

モーツァルト新全集を刊行しているベーレンライター社から、実用版として刊行された楽譜。詳しい校訂報告は、全集 -15-8(当館請求記号:A1-259)を参照されたい。

T24 ブライトコップ・ウント・ヘルテル社

請求記号 G8-614

Konzert B-Dur für Klavier und Orchester KV 595. Breitkopf & Härtel, 1964.

Ausgabe für zwei Klaviere von Bruno Hinze-Reinhold.

2台ピアノ用に編曲された演奏用の楽譜。編曲者による詳しい序文が書かれている。

T25 ペーターズ社

請求記号 G23-800

Konzert für Klavier und Orchester B-Dur Nr.27 KV 622. Herausgegeben von Christoph Wolff und Christian Zacharias, Zweites Klavier von Roland Erben.

Urtext. C.F.Peters, c1991

2台ピアノ用編曲楽譜。編者と編曲者は別で、編者クリストフ・ヴォルフによる序文が書かれている。T24の楽譜と見比べると編曲の違いがわかる。

* この他にも、図書館にはたくさんの関連資料があります。OPACで検索してみてください。

図版パネル

P1 モーツァルトの肖像 バルバラ・クラフト画 油彩 (1819年) ウィーン楽友協会蔵

モーツァルトを直接にモデルとして描かれたものではないが、彼の死後、当時の優れた女性画家バルバラ・クラフトにより描かれたこの肖像画は、クローチェ作「家族の肖像」や、消失した細密画等に基づくものと推定されており、最もモーツァルト自身に似ているとされている。

[Dreimal drei in Dur und Moll; Musiker, Freimauer, Bruder in Apoll, by Oberheide. (Verlag Deutscher Freimauer GmbH, 2009)] 請求記号 J117-615

P2 シカネーダーの肖像 フィリップ・リヒター作 銅版画

エマヌエル・シカネーダー Emanuel Schikaneder は、単にモーツァルトのオペラ(魔笛)の台本作家というだけではない。約百編に及ぶ芝居の作者であり、演出家、役者として活躍し、モーツァルトとベートーヴェンの時代を通じて、ウィーンにおける民衆劇場の無冠の帝王であり、「ドイツ・オペラ」の開拓者でもあった。モーツァルトの親友でもあり、フリーメイソンの仲間でもあった。

[『魔笛とウィーン』クルト・ホルカ著 西原稔訳 平凡社 1991] 請求記号 C54-895

P3 (魔笛)初演のポスター 1791年9月30日

配役での注目。パパゲーノ役は台本を書いたシカネーダー。夜の女王役のホーファー夫人は妻コンスタンツェの姉。タミーノ役のシャックはモーツァルトの親友。海老澤敏訳を付す。

[Mozart und seine Welt in zeitgenössischen Bildern, Begründet von Maximilian Zenger, vorgelegt von Otto Erich Deutsch. (モーツァルト新全集 Serie X-32) (Bärenreiter, 1961)] 請求記号 J91-979

P4 (魔笛)初演時のプログラム 手書きの彩色下図

ベルリンの国立図書館音楽部門に所蔵されている初演時の彩色下図。内容は、P3と同一。

[Dreimal drei in Dur und Moll; Musiker, Freimauer, Bruder in Apoll, by Oberheide. (Verlag Deutscher Freimauer GmbH, 2009)] 請求記号 J117-615

P5 (魔笛)初版台本挿絵 イグナーツ・アルベルティ作 1791年 ウィーン 銅版画

イグナーツ・アルベルティは、フリーメイソンで、モーツァルトの盟友。初版の挿絵は、出版者アルベルティ自身が彫った。初版の標題紙の見開き部分に付されている挿絵。フリーメイソンの「反省の部屋」とされており、古代エジプト風の閉じられた空間には、種々の象徴が配され、いくつかの入口が、闇から光への歩みを示唆している。後の版では、削除されている。

[Mozart und seine Welt in zeitgenössischen Bildern, Begründet von Maximilian Zenger, vorgelegt von Otto Erich Deutsch. (モーツァルト新全集 Serie X-32) (Bärenreiter, 1961)] 請求記号 J91-979

P6 (魔笛)初版台本挿絵 イグナーツ・アルベルティ作 1791年 ウィーン 銅版画

初版の4頁から5頁の間に付されている挿絵。シカネーダーがパパゲーノ役の衣装を着けている絵。当時43歳であるが、不思議と若く、描かれている。

[Mozart und seine Welt in zeitgenössischen Bildern, Begründet von Maximilian Zenger, vorgelegt von Otto Erich Deutsch. (モーツァルト新全集 Serie X-32) (Bärenreiter, 1961)] 請求記号 J91-979

P7 (魔笛) 舞台図 ヨーゼフ&ペーター・シャッフナー作 彩色銅版画 1793年頃

1975年ブルノで刊行された「汎ヨーロッパ・ジャーナル Allgemeines Europäisches Journal」に掲載された銅版画。1793年のブルノでの上演の舞台を描いているが、初演時のおおよその形が類推できる。展示パネルは、第2幕の2枚と初演の時のパミーナ。

[Mozart und seine Welt in zeitgenössischen Bildern, Begründet von Maximilian Zenger, vorgelegt von Otto Erich Deutsch. (モーツァルト新全集 Serie X-32) (Bärenreiter, 1961)] 請求記号 J91-979

P8 ウィーンのフリーメイソンの参入儀礼を描いた絵 作者未詳 油絵 1780年代 ウィーン市立歴史博物館蔵

モーツァルトが所属していた支部「新・授冠の希望」の入会式の模様が描かれている。階位儀礼への参加は、自己の内面への洞察を与えてくれる感動的な経験であったという。右端に座っている人物がモーツァルトだと言われている。

[Dreimal drei in Dur und Moll; Musiker, Freimauer, Bruder in Apoll, by Oberheide. (Verlag Deutscher Freimauer GmbH, 2009)] 請求記号 J117-615

P9 フリーメイソンの〈親方〉位階の徽章をつけたモーツァルト

J.クエス=シャイヒェルバウアーが彼の著書「オーストリアにおける200年のフリーメイソン結社」の中で出典を示さずに転載している。おそらく19世紀の匿名画。ウィーンのO.ケリー出版社の好意ある許可を得て転載されたもの。

[『魔笛 秘教オペラ』 J・シャイエ著 高橋英郎・藤井康生訳 白水社 1976] 請求記号 C25-958

P10 ウィーン時代のモーツァルトのレリーフ レオナルト・ポッシュ作 1789年 ウィーン

ポッシュによるこの石膏メダルは、この作家の手になる多くの類似品のひとつとされている。モーツァルトは、後年ウィーンに移ってからは、自毛を鏝(こて)でカールさせて結っていたと言われており、そのファッションを見ることができる。

[『モーツァルト名曲事典』 音楽之友社 1992] 請求記号 X-044/M939/M

P11 モーツァルト最後の肖像 ドーリス・シュトック作 銀尖筆画 1789年 ライプツィヒ市立図書館蔵

1789年、ベルリン旅行の際に訪れたドレスデンで、モーツァルトは、当地のザクセン宮廷高等宗教局評定官クリスチャン・ゴットフリート・ケルナーを訪問した。その妻の姉、ドーリス[ヨハンナ・ドロテア]・シュトックは画筆に長けた女性で、モーツァルトは彼女の肖像画のモデルとなった。モーツァルトの最後の肖像画とも言えるこの絵は、快活そうな中にもどこか悲しげな陰のある表情が印象的で、晩年のモーツァルトを偲ばせる小傑作である。

[『モーツァルト書簡全集 ウィーン時代後期』 海老澤敏・高橋英郎編訳 白水社 2001] 請求記号 C65-638

P12 画家ドーリス・シュトックの肖像 銀尖筆画 詳細不詳

1789年に、ドレスデンでモーツァルト最後の肖像画を描いたとされる、女性画家ドーリス[ヨハンナ・ドロテア]・シュトック(1760-1832)の肖像画。

[『モーツァルト書簡全集 ウィーン時代後期』 海老澤敏・高橋英郎編訳 白水社 2001] 請求記号 C65-638

P13 死の床のモーツァルト ペンによるスケッチ画 詳細不詳

「フローベルガー」というサインがあるが、この名前の画家については未詳。実際のスケッチではないが、死の床に伏すモーツァルトと周囲の人々の様をイメージとして描いたものと思われる。

[『モーツァルト全集』 第1巻 解説書 海老澤敏ほか著 日本フォノグラム 1990] 請求記号 XD11172-183

モーツァルト 最後の年 1791 の作品年表

*この頁は、当館「図書館展示2003年5月」配布資料より転載させていただきます。

社会状況 6. ルイ 16 世パリ脱出失敗 8.ピルニッツ宣言(ヨーロッパの君主はフランス王家を擁護) 9.フランス新憲法制定、立法議会成立

1.5	〈ピアノ協奏曲 変ロ長調〉K.595 作曲。
1.14	リートの3連作〈春への憧れ〉〈春の初めに〉〈子供の遊び〉K.596-598 作曲 『子供と子供の楽しみのための歌曲集』に収められている。アルベルティより出版。
1.23-2.28	宮廷舞踏用舞曲 K599-602,604、605 作曲 宮廷作曲家としての仕事。
3.3	〈自動オルガンのためのアレグロとアダージョ 八長調〉K608 作曲 「ミュラーの芸術ギャラリー」の自動オルガンのための曲を依頼される。
3.4	〈ピアノ協奏曲変ロ長調〉K.595 をクラリネット奏者ヨーゼフ・ベアアの演奏会で演奏。ピアニストとしての最後の演奏会。
3.6	〈コントルダンス ト長調〉K.610、〈ドイツ舞曲 八長調〉K.611 作曲。
3.8	〈このうるわしい御手と瞳のために〉K.612 シカネーダー一座の歌手ゲルルとコントラバス奏者ピッシュベルガーのために作曲。
3.	〈シャックの「愚かな庭師」のリートによる「女ほど素敵なものはない」の主題による8つの変奏曲 ヘ長調〉K.613 シカネーダー一座のテノール歌手兼作曲家シャックの曲。「愚かな庭師」の原作はシカネーダーで 1789.9.26 にウィーンで上演された。
3.	この頃《魔笛》作曲をシカネーダーから依頼される。
4.12	〈弦楽五重奏曲 変ホ長調〉K.614 作曲。依頼はハンガリー人の音楽愛好家ヨハン・ペーター・トスト。
4.	《魔笛》の作曲に集中的に取り組む。
5.4	〈自動オルガンのためのアンダンテ〉K616 作曲 「ミュラーの芸術ギャラリー」からの依頼。
5.9	ウィーン・シュテファン教会の副楽長(無給)に任命される。
5.13	〈グラス・ハーモニカのためのアダージョとロンド〉K.617 依頼はグラス・ハーモニカの名手マリアンネ・キルヒゲスナー。
6.8	バーデンに行く。(妊娠中のコンスタンツェは長男カールとバーデンで療養中)バーデンとウィーンを頻りに往来。
6.10	〈グラス・ハーモニカのためのアダージョとロンド〉K.617 初演 ブルク劇場。
6.11	ウィーンに戻る。《魔笛》第2幕第11場「僧侶の2重唱」まで完成。
6.17	〈アヴェ・ヴェルム・コルプス〉K.618 作曲 バーデンで療養中の妻コンスタンツェの世話をしてくれた教師アントーン・シュルトへ感謝をこめた作品。
7.2	バーデンにいたジュースマイヤーに《魔笛》の楽譜(第1幕導入からフィナーレ)を送り返すように手紙を書く。
7.	《魔笛》第1幕の総譜づくりに入る。
7.	シカネーダーが用意した劇場近くのあずまやで《魔笛》に集中。
7.9~11	バーデンに滞在。

7.12	ウィーンに戻る。見知らぬ男が訪問。(レクイエム)の作曲を依頼される。依頼主はヴァルゼック=シュトゥパハ伯爵。
7.16	皇帝レーオポルト2世のボヘミア王戴冠記念式典のために(皇帝ティートの慈悲)の作曲を依頼される。
7.26	四男フランツ・クサーヴァー誕生。
7	(ドイツ語小カンタータ「無限なる宇宙の創造者を崇敬する汝らが」)K.619 作曲。フリーメーソンの会員ハンブルグの商人ツィーゲンハーゲンから依頼される。
8.10	(舞曲)K.599-602,604、605のピアノ譜がアルタリアから出版される。
8.19	(グラス・ハーモニカのためのアダージョとロンド)K.617 再公演 ケルトナートーア劇場。
8.24	妻コンスタンツェと弟子ジュースマイヤーとともにプラハへ行く。28日に到着。
9.2.	プラハで(ドン・ジョヴァンニ)の指揮。
9.5	(皇帝ティートの慈悲)K.621 作曲。
9.6	(皇帝ティートの慈悲)初演 プラハ 国立劇場
9.10	プラハのフリーメイスン分団を訪問。(フリーメイスンの喜び)が演奏される。
9.15	ウィーンに戻る。
9.28	《魔笛》K.620「序曲」「僧侶たちの行進」を作曲。全曲完成。
9.29	《魔笛》総練習。
9.30	《魔笛》アウフ・デア・ヴィーデン劇場で初演。指揮モーツァルト。
9.28 ~ 11.15.	(クラリネット協奏曲 イ長調) K.622 作曲。クラリネットの名手アントーン・シュタードラーのために作曲。
11.15	(フリーメイスン小カンタータ「われらが喜びを高らかに告げよ」) K.623 作曲。フリーメーソンの<新授冠の希望>分団の新会堂の献堂式のために作曲。
11.18	(フリーメイスン小カンタータ「われらが喜びを高らかに告げよ」) K.623 新会堂の献堂式で初演、指揮はモーツァルト。
11.20	病床に臥す。
12.4	容体悪化。
12.5	午前0時55分死去。

* (レクイエム)K.626 は未完に終わる。ジュースマイヤーにより 1792 年中頃に補筆完成される。初演:1793年1月2日、ウィーン。



年表作成: 染谷周子・市川啓子(加筆)

参考文献: 『モーツァルトの生涯 3』海老澤敏著

『モーツァルト書簡全集 ウィーン時代後期』海老澤敏・高橋英郎編訳

2011 図書館展示 4月

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
1756-1791

1791:モーツァルト最後の年

～ 《ピアノ協奏曲 K.595》と《魔笛》を中心に～

展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2011.4.4 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会:二塚恵里・撰正弘

参考資料: 『モーツァルト=二つの顔』磯山雅 講談社、 『モーツァルトの生涯』海老澤敏 白水社、 『モーツァルト全集』小学館、 『モーツァルト事典』東京書籍